



西洋経済史A(坂出)

第9講 穀物法と自由貿易体制

2004年6月11日

1



前回の講義

- 演習問題「イギリス資本主義化におけるマーチャント・バンカーの役割を論ぜよ」
- 1 イギリス革命と商人・金融利害
- 2 マーチャント・バンカーの概念と機能
- 3 有力なマーチャント・バンカーと国家財政
- ① イギリスにおけるシティの位置
- 「ロンドン＝マンチェスター枢軸」？
- ② ロンドンを中心とした国際的多角決済システムの構造

2

● ● ● | 本日のテーマ

- 演習問題「穀物法をめぐるマルサスとリカードウの論争を論じなさい」
- 1 重商主義から自由貿易体制へ
- 2 穀物法(the Corn Laws)廃止
- 3 自由貿易体制の試練

3

● ● ● | 【1】重商主義から自由貿易体制へ

1. 18世紀までのイギリス通商政策
 1. 重商主義体制
 2. 帝国の役割
 3. 三角貿易
2. 自由貿易への転換

4



【2】穀物法廃止

1. 穀物法(the Corn Laws)廃止
 1. 国際分業論
 2. 穀物自給体制
 3. 三大階級への影響
2. 穀物法廃止



【3】自由貿易体制の試練

1. 全国公正貿易同盟(1880年代)
2. 関税改革キャンペーン



小括

- 通商政策をめぐる製造業利害・地主利害・金融利害

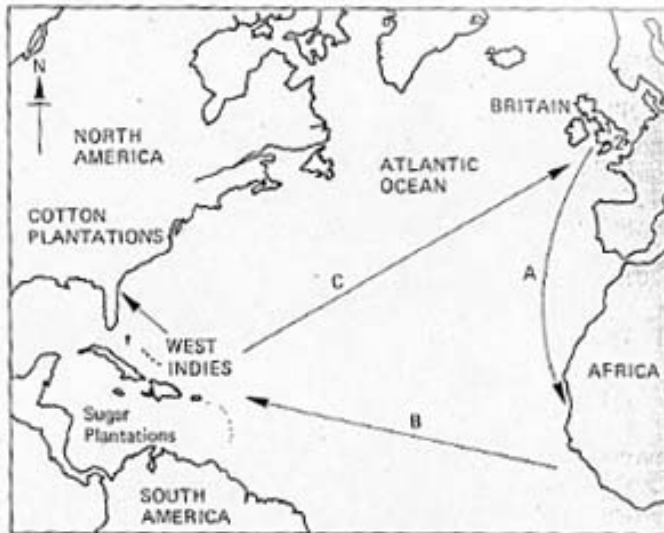
7



次回のテーマと演習問題

- 次回(6月25日)
- 第10講 6月25日 救貧法と中産階級・労働者階級
- 『経済史入門』8章2・3 10章3 『欧州経済史』『欧州経済史』3章
- 演習問題「救貧法(1834年)の実効性について論ぜよ」

8



The slave-trade

Ports

1 = Liverpool

2 = Bristol

The three legs of the journey involved these 'commodities'

- A Britain to Africa – hardware and manufactures
- B Africa to W. Indies – slaves and America (Middle Passage)
- C W. Indies to Britain – cotton, sugar, tobacco, rum